

佐久穂町イエナプラン スクール設立準備新聞

第二号
発行元
一般財団法人佐久穂町
イエナプランスクール
設立準備財団

大日向地区で秋をさがしました

「秋のがっこう」を
開催しました

十一月十一日、夏に引き

続き、季節のプログラム「秋のがっこう」を開催いたしました。今回のテーマは「コミュニケーション」。子どもたちがどのような「コミュニケーション」を学び、何を体験したのか、ご報告させていただきます。

今回も異年齢での活動を実施しました。四歳・五歳・六歳で二グループ、一年生・二年生で一グループ、三年生・五年生で一グループの全四グループ。計二十四名の参加となりました。

朝は体育館に集まって、サークル対話からスタート。お互いのことを知らない人たちと一日過ごすため、不安な気持ちも大きか



ったと思います。遊びや自己紹介を通して笑顔が見られるようになったのが印象的でした。

十一月十一日、夏に引き続き、季節のプログラム「秋のがっこう」を開催いたしました。今回のテーマは「コミュニケーション」。子どもたちがどのような「コミュニケーション」を学び、何を体験したのか、ご報告させていただきます。

プログラム内容と意図

今回の秋のがっこうでは、子ども向けプログラムと大人向けプログラムを別々におこないました。前回の夏のがっこうでは、保護者の皆さまにはお子さまの様子をご覧になっていたということという気持ちで見学の時間としたのですが、見えていただけだけでは「イエナプラン教育のコンセプト」などを十分に伝えることができなかった、という反省点が残りました。そこで、お子様が学んでいる時間、大人の皆さまにも学んでいただく！という想いで大人向けプログラムを実施いたしました。

子ども向けプログラム

午前中は、個の学びを重視する「ブロックアワー」として、個人個人で「秋らしいもの」を見つけに、みんなで外へ出かけていきました。六歳以下の子どもたちは校庭など学校の敷地内

を探検し、小学生は大日向の地域へ出ました。一・二年生は三区の公民館の先の方まで向かい、三・五年生は車に乗って、三石さんの畑まで移動して、直接大日向の住民の方と触れ合うことができました。どのグループも一時間以上外を堪能し、校舎へ帰ってきてから、サークルになって「どんなものを見つけたのか」「何を感じたのか」「どんなこと気がついたのか」などを共有しました。個人個人で見つけ、感じたことを、共に過ごした仲間に共有することで、お互いの気持ちを

を深め、自分の気持ちに気がついたり、整理することができるので、振り返り（リフレクション）はとても大切な行為です。お昼はお弁当を持ってきていただき、家族や友達同士で過ごしてもらいました。午前中の子どもたちの様子をスライドショーでラッシュルームの壁に映し出したところ、それをきっかけにご家族での会話が始まる様子もあつたように思います。そして、「子どもの楽しそうな姿が見られてよかったです」と保護者の皆さまもほっとされていました。





午後は、即興パフォーマンス集団「ロクディム」のメンバーと一緒に、それぞれが見つけてきた「秋」をどんな風にしたら大切な人や仲間に伝えることができかな？を考え、体感する時間になりました。今回の秋のがっこうのテーマは「コミュニケーション」。自分の感じたことや考えたことを誰かに伝える方法は一つではないし、そんなに簡単なことでもない。どんな風に表現すれば、伝えたいことを受け取ってもらえるか、それぞれの発達に合わせ色々な表現方法を体験しながら「発表会」に向け

て考えていきました。「発表会」は、子どもたちにとっては楽しみでもあり、緊張する時間になると考えていた私たちは、ステージではなく体育館の床でお客様と同じ高さでの発表を予定していましたが、「ステージがいい！」という子どもたちの声で急遽変更となりました。

イェナプラン教育では、対話・遊び・学習のほかに、催しも大切に行っています。みんなで集まって学んだことを共有したり称え合ったりすることが、共に生きていく実感を得ることにもつながります。今回は「発表会」に地域の方々もご招待しました。地域の方々にも子どもたちの「ありのまま」の姿を、目を細めながらご覧いただけただけで、心から嬉しく思います。そして、子どもたちの想いも色々な「コミュニケーション」の形を通して、観客の皆さまへ届けることができたことも実感いたしました。

ロクディムとの楽しい発表会



即興パフォーマンス集団「ロクディム」

「この瞬間を一緒に笑おう。」をキーワードに、観客と一緒に作りあげる即興芝居・即興コメディパフォーマンスを中心に活動中。劇場のみならずカフェ、神社、学校など「いつもの場所をあっという間に『笑い溢れるコメディ空間』へ」変えながら、日本各地を巡り公演を行われています。



大人向けプログラム

子どもたちが「コミュニケーション」を体験的に学んでいる時間に、保護者の皆さまにも、「イェナプラン教育について」と「佐久穂町について」学んでいただくプログラムを並行して実施いたしました。どちらにも真剣に参加してくださる方々ばかりで、質問も多かったです。心から感謝申し上げます。

特に、佐久穂町の現状や移住に伴う住まいや仕事については、佐久穂町役場の方々からもご説明いただき、本格的にご検討いただくことにも繋がったのではないかと感じております。

最後に、秋のがっこうで学んだことを、直接お子さまからお聞きいただきたいとお願ひしたところ、「帰りに色々話してくれました！」というご報告を多数いただきました。本当にありがとうございました！



グループレポート（グループリーダーより）

みどりグループ<4・5・6歳>：ケンケン(宅明健太)

「みどり」グループは、サークルになって1日のスケジュールをみんなで確認したあと、お互いの名前を知るところから始まりました。裏返しにした名札を順番に引いて、その名札の持ち主の名前を呼んで名前を知るだけでも、少しお互いの距離が近くなったように感じました。その後、「秋のお宝」を探しに外へ出発。朝からの雨も上がって、外はよいお天気。玄関の前を少し歩くだけで、マツボックリを見つけたり、きれいなモミジの葉を見つけたり。あっという間にお宝が増えていく子どももいれば、歩き回って辺りをじっくり観察している子どももいました。「これは秋にしか見つけられない！」と持ってきたのはススキの穂。そのうちに、コスモス、大きな葉っぱ、白い花、小さなピンクの花、長いつる、バッタ…秋のお宝が増えていきました。「たんぽぽ、春に咲くんだね〜」「マツボックリ、大盛りにする」「もみじの川がある！」と、次々に自分の発見や思いを大きな声で知らせてくれました。



午後は、動物になって鬼ごっこをしたり、持ち帰った「秋のお宝」を絵で表現したり。ひつつき虫をていねいに描写したり、ツル性植物を画用紙いっぱい描いたり、マツボックリや葉っぱなどをそのまま貼り付けたり。夢中になって描き続ける子、折り紙が気になり出した子、階下にいるママに会いたくなかった子…みんなそれぞれのペースで活動しました。休憩時間、ブルーシートをたたもうとしていた時のことです。「フリフリ」とシートを揺らし始めたと思ったら、ブルーシートはあっという間に波に。教室に戻ってきた子どもたちも加わって、みんなで大波を作りました。波の中にはいって、イルカ、サメ、ワニなどになりきって、みんなで即興の海を楽しみました。後半は、大きな紙に、みんなで見たもの触れたものの絵を描くことにしました。カラフルな花、モミジの赤に染まる山、大きな木、青空…。「全部（背景）緑色に塗りたい！」という子の呼びかけに、2人、3人と協力者が増えていき、鮮やかな草原が広がりました。紙飛行機作りに夢中のメンバーもいて、紙飛行機も絵に貼り付けることになりました。

発表会では、舞台上上がる前から緊張している子もいましたが、今日1日を思い出しながら、見つけたお宝を紹介しました。みんな、心に残る「秋のお宝」を見つけれられたかな？

ピンクグループ<4・5・6歳>：あっきー(秋山真一郎)

「どんな人がいるんだろう？」「おうちの人と離れて不安だな…」

そんな雰囲気がひしひしと感じられる中始まった「ピンク」グループ。でも、いざ外に出て大日向の空気に触れた瞬間に不安な様子はどこかへ行ってしまいました。はじめは外に出てちょっとしたレクチャー。「銀杏の実が落ちているけれど（手がかぶれるから）触っちゃいけないよ」と、地域の看護師さんに教えていただき、「じゃあ、みんなでいっぱい秋をさがそう」という声がけと共に探検が

始まりました。子どもたちが最初に目をつけたのは、たくさんのイチョウの葉。自分が好きな形の葉を探したり、たくさんひろって、ばらまいたり、とても楽しそうです。校庭の中を冒険していると、たくさんのお会いがあります。ある男の子が見つけたのは、すすきの穂。枯れたばかりなのか、なかなかしっかりしていて、なによりとても長い穂でした。その出会いが気に入ったのでしょうか、その子は長いすすきをたくさんたくさん見つけることができました。活動の時間が増えるたびに笑顔も増えていき、とてもすてきな校庭探検でした。終わったあとの「ふりかえりの時間」では、みんな笑顔で「楽しかった」ということを教えてくれました。

午後は、大きなブルーシートを広げ、その上で、午前中に自分たちが見つけた秋を「作品」として仕上げていきました。画用紙の上に拾ってきた石を貼っていく子、自分がとった葉を、お面に見立てて作品をつくる子、一人ひとりが、その子にしかできない発想で作品を仕上げていく姿は、とてもたくましいものでした。

最後の発表では、自分の作品を発表し、それを「からだで表現する」という活動を行いました。「恥ずかしい」という思いに負けず、精一杯の表現をした子どもたちにたくさんの拍手が送られ、みんなとてもうれしそうでした。



グループレポート (グループリーダーより)

きいろグループ<1年・2年>: ふくちゃん(福田健)

サークルに座って待っていると、少しずつ子どもたちが集まってきました。新幹線で来たよ、名前の漢字はここまで習ったんだよ、などの話をしながら初対面同士が少しずつつながっていきます。自己紹介をした後、見えないボールをお互いにパスしあって遊びました。ボールが重たかったり高く投げたり食べちゃったり。それぞれの表現を楽しみました。見つけた秋を入れる袋を持って大日向の探検へ出発。「袋に入れられないものは心にしまってお持ち帰ろう。」「川まで行こうかな。」落ち葉、木の実、滝、苔、柿、木の枝、神社。見つけたものや好きなもの、歩き方も全く違う子どもたちと大人たち。安全には気を付けつつ、子どもたちの思うままに過ごしました。川では、袋に入れてきたものを全部捨てて川の水をくむ子。飛び石を上手に渡る子。時間を見て切り上げましたが、もっと遊びたかったんだろうな。帰り道、気になった道に入ると竹のトンネルを発見。帰り道、子どもたちの距離はぐっと近くなっていました。ふり返りのサークル。何を見つけたか、何が好きだったか、何が楽しかったかを話します。「高い石垣を登ったことが楽しかった」「自然の落とし穴を見つけた」「あああった、竹のトンネル」「えっそんなところ行ったっけ」「おなかすいた…」思ったことをそれぞれが発言するのだけれど、自然に話がつながっていく感じが心地良かったです。

午後はまず、拍手をまわすゲームで遊びました。早く回したり、渡したい人に渡したり。子どもたちが「遊びたい」と言ったものは、やってみました。しりとり、山手線ゲーム。他にも、連想ゲームや連想しないゲーム等で遊び、「プレゼントゲーム」ではちょっとした芝居もし、ナイフとフォーク等を体で表現するゲームもしました。

発表会は全員の希望で、絵を描いて表現することになりました。模造紙に、見つけた秋を描いたり貼ったり、画用紙に個人で描いて模造紙の絵と合体させる子も。互いの良さを認め合う言葉が飛び交い、とてもあたたかい雰囲気の発表となりました。



あおグループ<3年・5年>: じょーじ(今村崇志)

サークルでおしゃべりをした後、午前中は三石さんの畑に行き、中山間地、茂来山、十石峠、養豚所など大日向の地域についてお話を聞きました。3年生には少し難しかったようですが、5年生2人から「茂来山の石積の話が面白かった」「十石峠の一石の話が印象に残っている」という声を聞きました。その後、実際に畑で大根と人参の収穫を体験しました。大根を抜いたときには「重っ」「でかっ」という声、人参を抜いたときには「なにこれ、変な形」と言うなど楽しんでいました。農機具も見せてもらい、子どもたちは三石さん・大根・人参・農機具など「本物」と出会い、実際に見て聞いて匂って触って多くのことを感じました。

午後は、午前中に感じたことを表現するワークをしました。初めに個人で「何を見たのか」「何を感じたのか」を自由に描く時間。次に、友達がどんなものかを描いているかを見て回る時間。再び個人で描く時間。個人で描く時間は、大きなポストイットに、好きな色のクレヨン、好きな場所、好きなように、描き始めました。すぐに描き始める子や周りの様子をうかがってから描く子、なかなか言葉にするのに時間がかかった子、大きな木の机の下で描く子など、

自分に合ったやり方で進めていました。その後、発表会はみんなが感じたことを劇にするのはどうか、という提案がロクディムからあり、子どもたちは一緒に1つ1つ丁寧に劇を創っていきました。

発表ではドキドキしながらもワクワクもしており、舞台での子どもたちはいきいきしていました。発表後のサークル対話では、「劇が楽しかった。」「初めてのこと(大根抜きや劇など)ばかりで楽しかった。」という声がありました。1日を通して、子どもたちは畑に行き、本物と出会い、見たもの、感じたことをチームで共有し、それを劇として表現し伝えることの楽しさを感じてくれたと思います。



ちいさな

ニュース

ちいさな

ニュース

「学校を起点としたまちづくりを考える会」を開催させていただきました

十月二十二日、旧佐久東小学校のランチールにて、「学校を起点としたまちづくりを考える会」を開催いたしました。地域の方々や東京からまちづくりに興味を持ってくださっている方々までご参加くださり、佐久穂町の課題や大日向のよいところ、そして、学校ができた時に期待すること、などを皆さまにご意見をいただきました。

また、十二月三日には学校の名称を決めるための会も開催予定です。次号ではそこで話された内容や決定した学校名をお伝えできると、予定です！お楽しみに。

いただいたご意見をもと

に、また新たに学校をどのようにに町に開かれた場にしていくのか、どのような役割を担う必要があるのか、を私たちも考えていきたいと思っております。もちろ



「大日向地区収穫祭の開催を検討するための準備会」に参加させていただきました



十一月十二日、旧佐久東

小学校で「大日向地区の収穫祭開催を検討するための準備会」となる、小さな会が開催され、弊財団も参加させていただきました。昨年まで旧東小学校で実施していた収穫祭が、今年は時期も場所も変更となったというところで、急遽大日向地区の区長の皆さまやジーバ共和国の皆さまのご協力のもと、旧佐久東小学校校舎を活用してできることを検

討する会となりました。

弊財団としては、普段お世話になっている方々だけでなく、まだお会いしたことのない地域の方々とも、食事を作ったり、飲んだり食べたりすることで、楽しく交流させていただき、本当に楽しい時間となりました。来年以降、「大日向収穫祭」が開催されるよう私たちも知恵と人手を出せるよう頑張ります！

秋のがっこう 写真館



ご協力いただきありがとうございました！

ロクディムの皆さま | 千曲病院の看護師の皆さま | 佐久穂町役場 総合政策課の皆さま | 佐久穂町の皆さま

「冬のがっこう」2018を開催します。

無事、紅葉いっぱいの大日向で「秋のがっこう」を開催することができ、たっぷりと秋を味わえたのも束の間、あつという間に大日向に冬が来ているのを感じております。佐久穂町の皆さまには、一律に「まだまだこんな寒さは序の口！」と言われ、財団メンバー一同、「噂の佐久穂の冬」にドキドキしています。しかし、季節も含めて全てを知ること・体感することは何よりも大切なことと私たちも考えておりますので、「冬のがっこう」を開催いたします。

開催日は、三月四日(日)となる予定です。まだまだ詳細は決まっておりませんが、決まり次第みなさまにご案内させていただきますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。佐久穂町の皆さま曰く「マイナス十五度の世界ではうまく笑えない」そうですが、楽しい一日になることをお約束します！

【お問合せ】 佐久穂町イェナプランスクール設立準備財団 事務局
 メール: info@sjsef.jp 公式ホームページ: <http://sjsef.jp>